

翻 訳

ジョン・ノックスによる宗教改革文書 (2)

The Reformation Pamphlets by John Knox (2)

— スコットランド貴族と身分制議会に提出された、司教と
カトリック聖職者により宣告された判決に対するアペレイション (2) —

The Appellation from the Sentence Pronounced by the Bishops and
Clergy: Addressed to the Nobility and Estates of Scotland (2)

伊勢田 奈 緒

1. 緒言
2. 翻訳

I. 緒言

本稿は前号に続くジョン・ノックスの宗教改革文書『アペレイション』の翻訳であるが、前回も述べたように、これは彼が築き上げてきた抵抗論を確立したものと言える。ノックスはローマの信徒への手紙13章1～6節を取り上げながら、合法的な権力者には、悪人を罰するための、且つ罪のない者を保護するための、また彼らの臣民の利益と必要のための剣が与えられていることを指摘する。その後で、今、腐敗し、没落しかけている宗教の改革と、偽教師を罰することが、王国の世俗行政官と貴族の権限に属するかどうかの検討を進めていく。ここでは、キリストの群れを養っていく権限は司教や宗教身分の職務であるとか、また、臣民を導く宗教の改革の仕事は、君主や世俗行政官の職務に属していない、という考え方がありますが、そうではない。これらの仕事が、君主や世俗行政官の権限に属することは、旧約聖書のモーセ、ヒゼキヤ、ヨシアが成し遂げた事実からみて、明らかであることをノックスは確信を持って主張している。

(尚、拙訳は一次史料Laing, David, ed. (1895),

The Works of John Knox, vol.4 Edinburgh, pp.481
—491の訳であるが、以下を参照した。

Selected Writings of John Knox, Presbyterian
Heritage Publications, 1995, pp.473-489

Roger A. Mason, ed. (1994), John Knox, On
Rebellion, pp.84-92)

2. 翻訳

なぜなら—私は言いたいのですが—異端が認められてきたのは、支配者たちの—すなわち他の者たちを支配するように任ぜられた者たちのことですが—、主なる関心事の第一が、彼らの神々の栄光と名誉とを促進し、彼らが真の宗教だと思っていたその宗教を維持すべきだと認めてきたことであります。そして第二の関心事は、すべての公平と正義において、その義務を負っている臣民たちを保護し、守ることが認められてきたことであります。私は貴方方に、神の真の名誉を維持しようとして、異端が、偶像崇拜を支配するというよりむしろ、神の真の宗教を支配することにならないように注意して、何を心がけるべきかを、骨を折って示したいものではありません。しかし、他の嘆願が、より厳しく、難しく認められるように思えるので、私は、手短に、

しかも、自由に、私が確信する神の真実の言葉を語ろうと思っています。すなわち、先ず、正に、貴方方は、悪人を罰し、貴方方の助けを請うている罪のない者たちに対して、責任を負っているということです。そして、第二に、神は、貴方方の臣民が神の真の宗教に正しく導かれるようにすることを貴方方に求められておられることです。そして、神は貴方方によって、悪弊が、サタンの邪悪や人々の怠慢によって忍び込んでくる時はいつでも改革されるように求めておられるのです。最後に、貴方方は名誉を剥奪し、死によって罰する義務があります。（もし、その犯罪がそうすることが必要とするなら）たとえば人々をだますか、あるいは、彼らの精神の糧をだまして奪うか、のようにです。もちろん、私は本気で神の生きた言葉を言っているのです。

第一と第二のことは、聖パウロの言葉によって非常に明かであります。これは、合法的な権力について言っているのでありますが、「人は皆、上に立つ権力に従うべきである。なぜなら、神以外に権力は存在しないからである。その権力は、神に定められたものである。だから、権力に抵抗する者は、神の定めに抗するものであり、そして、その者たちは、自分自身に裁きを招くことになるであろう。なぜなら、支配者は、善を行う者には恐れられないが、悪を行う者には恐ろしい存在であるからである。あなた方は権力者を恐れられないでいられるか？善を行いなさい。そうすれば、あなた方は、権力者たちに誉められるであろう。なぜなら、権力者はあなたがたの繁栄のために神に仕えるものであるからである。しかし、もし、あなた方が悪を行えば、恐れなければならない。なぜなら、権力者は、いたずらに剣を携えているのではないからである。権力者は、神に仕えるものとして、悪を行う者に復讐をするのである。¹⁾」これらの言葉を持って、使徒²⁾は、合法的権力に与えられている服従を非常に厳しく命じ、そし

て、神の定めに抗した者に反対して、神の復讐を発するのであります。そして、彼は権力者にその職務を付与し、権力者は、悪人に復讐し、善人を保護し、彼らの務めを果たし、統治するのであります。そして、権力者によって臣民は、恩恵に与り、良いことをすれば誉められるのであります。今や、もし、貴方方が、神によって定められた権力をもつならば（そして、私は、すべてのものが聞き入れてくれると、希望しているのですが）、その時、使徒のこの明白な言葉により、神によって貴方方に与えられた剣は、罪のない者を維持し、悪人を罰するのであります。しかし、私と、私と共に非難された私の同胞は、私たちのせいにかされたすべての者に、私たちが無実であることを証明するだけでなく、私たちは、貴方方の司教たちが、すべてのキリスト教徒に有害なものとして影響を及ぼしたことをはっきりと証明するのであります。そして、ですから、使徒の明白な教えによって、貴方方は、私たちを保護する義務があり、他を罰し、はっきりと罪人であるとわからせる義務があるのです。

さらに、使徒のかつての言葉は、高い権力がいかに彼らの臣民を拘束しているかを教えています。すなわち、彼らは、他人の利益と幸福のために神によって定められた、神に仕える者であり、故にそのことを非常に念入りに思うべきなのであります。このことは、聖霊に帰するもので、臣民に服従し、そして納税をすることを命じています。「これに対し、貴方方は貢ぎ物と税を支払いなさい。³⁾」と命じています。このことは、彼らが、貴方方の幸福のために剣を携えている神の僕であるということなのです。そこで、責任が付与されなければ、名誉がないことは明らかなことでもあります。そして、この点、貴方方にはじっくり考えてもらいたいのです。つまり、神は、貴方方に、彼らの利益や必要にかまわずに、貴方方の同胞を暴君として、置かれなかったことでもあります。貴方方は、聖霊が反対のことを証言するのを聞きました。そしてすべ

1) ローマの信徒への手紙13章1～4節参照。

2) パウロのこと。

3) ローマの信徒への手紙13章6節参照。

ての合法的権力者たちは神に仕える者であることを断言します。彼らの臣下の富も利益も救いも破滅のために定められてはいないのです。(私は貴方方に懇願したいのですが、)全く食糧なしに町の中に、彼らの臣下を取り囲み、あるいは、他の食糧ではなくて、毒を盛られた食糧を彼らに与える行政官は、彼らの臣下の利益のため統治していると言うことができるでしょうか？私は、このことを断言するほど愚かな者はいないと信じます。しかし、多少分別のある人は、そのような暴君たちは、すべての統治にふさわしくないと大胆に、断定することと思います。もし、彼らによって私たちがキリスト・イエスは絶対信頼できる真理であると断定することを、精神が肉体よりもずっと大きく価値あるものであるということを否定されるなら、その時、私たちは、今日、神の言葉を聞くことから、彼らの臣民をしめだしている人々がいかに権威にふさわしくないかを、そして、火や剣によって、彼らの精神の毒、反キリストの呪うべき教えを強いられ、そして《毒を盛られた食糧を》食べることを強いられていることに容易に気づくであります。

ですから、一この点で、私は言いたいのですが一私は、閣下たちに、大部分の人々が思っている以上に大きい責任についての注意を入念に向けるように訓戒するのをやめられないのです。不敬虔な人々が彼らの臣民に対して行う、暴力的な悪と圧制をやめることで、十分なのではなくて、貴方方は、さらに、すなわち、彼らの富のために彼らを統治する義務があるのであります。そして、もし、貴方方が怠慢で、真の聖職者を準備しないと、あるいは、貴方方が保護しても、《臣民が》狼のように荒れ狂って、説かれる真のキリストの福音の糧が欠如し、精神は飢え、滅び、苦しむことになれば、貴方方は、《統治》する資格がないのであります。《これでは、》神の面前で、貴方方は赦されないでしょう。神は、貴方方それぞれに負わされた才能を考慮することが必要だと思ひ、そして、貴方方が、貴方方の司教に精神的義務を負ってきたのではないかと思っていることを言っているのであり

ます。いや、違います、主よ！貴方方は、神の裁きを逃れることは出来ないのです。なぜなら、もし貴方方の司教たちが司教ではなくて、人を欺く泥棒や荒れ狂う狼であることが分かれば、(そして、神の御言葉によって、法や教会会議によって、そして、原始教会から今日まで、敬虔なる者たち全てが学んできた判断によって、私は、証明することを申し出たいのですが)その時、貴方方が承認することや彼らを弁護することは、神の前で、泥棒や殺人者である彼らと関係していると評されることでありましょう。なぜなら、次のように、預言者イザヤは、エルサレムの支配者たちを非難しているからです。すなわち、「貴方方、支配者たちは、(彼は言っているのですが)背信者であり、(すなわち、神の強欲な抵抗者のことではありますが)そして、彼らは泥棒の仲間である。⁴⁾」と。しばしば、聖なると呼ばれ、寺院や、神の儀式があるそういう都を彼ら⁵⁾が、統治するのではあります、この激しく厳しい非難は、彼らに反対して申し立てているのであります。なぜなら、彼らが邪悪な泥棒と言うことだけでなく、主として、彼らが、名誉と権威において、邪悪な者たち一彼らの祭司たちと偽預言者たち一を保護したからであります。もしも、彼らがその時代、聖霊によるこの非難を避けていたら、貴方方は、邪悪な者たちを保護することに反対して発せられた非難も判決も逃れられないことを知りなさい。すなわち、いずれにせよ、神の激怒と復讐の杯を共に飲むことになるのであります。

そして、貴方方は、貴方方自身を欺かないようにするため、貴方方の司教たちが、徳があつて敬虔であるかを判断し、そのことを証明することを私は、主張し申し出るのであります。そして、貴方方の聖職者である全野次馬連より邪悪な者は、そもそも初めから、どの時代にも一般的に知られていないのであります。尚、ソドムとゴモラがその点で、正当化されるかもしれません。なぜなら、ソドム

4) イザヤ書1章23節参照。

5) エルサレムの支配者を指している。

とゴモラは、ロトに何の暴力も振るわないうで、ロトに正当に彼らの間に留まることを赦したからです。貴方方の詐欺のような有害な同時代の人々は、そういうことはなく⁶⁾、他の理由でなく、真の礼拝や神を称えた理由で、キリストの体の真の一員を火や剣で非常に迫害したのであります。そして、ですから、私は、恐れずに、神が次のことを、いつか正当とすることを主張するのです。つまり、貴方方の職務により、貴方方が、彼らの暴政を抑制する義務があるばかりでなく、彼らを泥棒、殺人者として、また、偶像崇拜者、神を冒瀆するものとして、罰する義務があるということを主張したいのです。そして、彼らの土地において、貴方方は、貴方方の臣民を導き、慰め、救うため、キリストの福音の真の説教者を配置する義務があるのです。ですから、貴方方が、彼らの利益のため、正当化するような支配ならば、聖霊は、決して同意しないのであります。もし、貴方方が、キリスト・イエスとともに王国をもつことを主張するなら、貴方方は、神の栄誉やあるいは彼らの同胞の救いを顧慮せずに、怠慢と傲慢と奔放に生きたりする者や、彼らに支配されているものたちを、高慢なニムロデと共に残酷に圧迫したりするような無知な大衆の支配者や、また、地上の不敬度で残忍な統治者たちの多くの前例者のようではないのです。しかし、貴方方の支配の例は、神が神の言葉の証言によって、示してきた者たちの実行であらねばならないのです。このことは後に述べましょう。

冒頭で述べましたが、合法的な権力者には、悪人を罰するための、且つ罪のない者を保護するための、また彼らの臣民の利益と必要のための剣が、与えられていることは明らかであります。今、腐敗し、没落しかけている宗教の改革と、偽教師を罰することが、王国の世俗行政官と貴族の権限に属するかどうかを、検討してみましょう。私は、かつての暗闇を維持する、盲目の世界のサタンが2つの重要な点を獲得していたことに知っています。第一に、サタンは、支配者、統治者、

行政官には、キリスト教徒の群れを養っていく権限は委ねていないのであって、それは、司教や宗教身分の者の職務であるとして排除していました。第二に、サタンは宗教の改革の仕事—宗教は、決して腐敗してはいないのですが—すなわち、王国における忠誠を誓った兵士が受けるような処罰は、すべての世俗権力にはなく、彼ら自身と彼らの認識に保有されているとしてきました。しかし、犯罪者が正しく罰せられないということはないのであって、臣民を導く宗教に秩序を付け改革することは、特に世俗行政官の職務に属しているのであって、神の完全な掟、神の明白な言葉、神を高く誉め称える者たちの事実や実例は、このことをはっきり物語っています。

神が、神の法、地位、イスラエルの中心での儀式を確立した時、神は宗教に関する事柄をモーセの権限からはずしませんでした。神は、彼⁷⁾に世俗の政治支配の義務を与えるように、彼の口と手に委ねました。すなわち、まず、神は、彼に現れ、そして、その後、宗教に関する事柄について教えられ、成される事は何でも、実行するように命じたのです。神は、アロンに特別に現れたのではなく、彼はモーセの口から決定されたことを命令したのであります。故にアロンは、彼自身あるいは、彼の子たちに、彼があるいは、彼らが祭司に就任すること、そして、祭司職を浄化することについては、何も認められずに、すべては、モーセに委ねられていたのです。そして、故に、次のような言葉は、モーセに繰り返されたのです。すなわち、「あなた方は、イスラエルの人々の中から、アロンと彼の子らを引き離して、彼らは祭司として務めを果たすように。あなた方は、彼らに衣服をつくって、あなた方は、彼らを聖別し、あなた方は、彼らを洗い清め、あなた方は、犠牲を持って彼らの務めを果たしなさい。⁸⁾」と。前に述べた、あらゆる儀式などは彼らに取り扱われるようにと、彼⁹⁾が命じたが、その特別な命令は、モーセに与えられたものであったので

7) モーセのこと。

8) 出エジプト記28章1～4節を参照。

6) ソドムとゴモラを指している。

す。今、もし、アロンと彼の子たちがモーセに従って、ただ、彼の命令だけを果たしたとしたら、一体、だれが、世俗行政官が、宗教に関する事柄を何も果たすことはないと大胆にも断言することができるのであろうか？というの、その時、神がキリストの姿を身につけている人々でさえ、世俗の権力、いわば、彼らの聖なる務めにつくことを受けるべきことを非常に必要であると見ているからです。そしてまた、モーセがアロンよりはるかに好かれて、一方が命令し、他方が従ったことを見て、誰が一体、世俗の権力が今、神の目において、非常に神聖を冒すものになっているので、それは、宗教に関するすべての衝突から引き離されるべきであると見なすでしょうか？

さまざまな場所における聖霊は反対を主張します。というのは、王が、王座に就かれるように命じた主なる教えの一つは、律法の書の例に書いてあります。それ¹⁰⁾は、彼と共にあって、彼は一生、昼も夜もそれを読み、彼は神である主を畏れることを学び、律法、つまり果たすべき法のすべての言葉を覚える必要があります。そればかりでなく、主なる統治者として、王は神の真の宗教が、神によって彼が責任を負っている民やキリスト教徒の群れを侵されないよう守る必要があるのです。そして、このことを、ダビデやソロモンばかりが完全に理解したわけではありません。ユダにおける敬虔な王たちも—ヤラベアム的手段によってイスラエルに侵入した背教や偶像崇拜の後であります—このことを理解し、いくつかの注目に値する宗教改革において彼らの権力を行使したのであります。というのは、ユダの王であるアサやヨシャファトは共に宗教が疲弊しているのに気づき、彼らの心を主に向け（聖霊に祈りなさい）、主に仕え、神の道を歩くことに委ねたのであります。そして、その後、アサは、彼の母から—あるものは祖母と言っているのですが—彼女の位を取り除いたのです。なぜなら、彼女

は憎むべき偶像崇拜の罪を犯し、骨を折って維持したからです。そして、ヨシャファトは、異常な神々を彼自身拒んだばかりでなく、偶像崇拜の主なる記念建造物を壊し、人々を教育するためレビ人を送ったのであります。ここでは、どちらもそのような宗教改革を彼らの義務に属すると理解したからであることは、明らかなことであります。

しかも、ヒゼキヤやヨシアの事実は、宗教の改革において、世俗行政官の権力や義務をよりはっきりと証明するものであります。ヒゼキヤの支配の前、宗教は非常に腐敗していて、主の神殿の扉は閉められ、灯火も消え、ささげ物を献げることもしなかったのです。しかし、彼の治世の第一年の第一の月に、王は、神殿の扉を開いて、祭司たちとレビ人たちを連れてきて、共に集まり、次のように彼らに言ったのです。すなわち、「私の言うことを聞きなさい。おお、レビ人よ。今、自分を聖別し、先祖の神、主の神殿をも聖別せよ。そして、すべての汚れたものを（つまり、彼が言っているのは、偶像崇拜の記念物を指しているのですが、）聖所から取り去りなさい。なぜなら、私たちの先祖は、私たちの永遠なる神、主の目に悪とされることを行なった。そして、彼らは、主を捨て、主の幕屋から顔をそむけたのである。それで、主の激怒は、ユダとエルサレムに起こったのである。見なさい。私たちの先祖は、そのために剣に倒れ、息子も、娘も、妻も、捕虜にされたのである。しかし、今、わたしは、イスラエルの神、主と契約を結ぶつもりである。そして、そうすれば、神の怒りは、私たちから離れるであろう。私の息子たちは、（彼は、優しく勧告するのですが）気弱になるべきでない。なぜなら、主は、主の御前にたつて、主に仕えるために貴方方を選ばれたのであるから。¹¹⁾」と。

王は、彼には宗教を改革する義務があることを知っていて、レビ人に、彼らの義務を命じ、彼らの義務と職務を勧告したのです。このことに、盲目の者であっても、気付かせようとしたのです。そして彼は、このことをよ

9) アロンを指す。

10) 律法の書を指す。

11) 歴代誌下 29章5～11節を参照。

りははっきりと、すべてのイスラエルに、また、エフライムとマナセに書簡で述べ、この大意の書簡をもった使者の手によって、伝えられたのです。すなわち、「イスラエルの人々よ、アブラハム、イサク、イスラエルの神、主に立ち帰れ。そして、そうすれば、主は、アッシリアの王の手を免れて生き残った人々のところに帰って下さる。先祖の神、主に背いたあなた方の父たちや、兄弟たちのようになってはならない。あなた方が見るとおり、主は彼らを孤独にさせた。強情になってはいけない。しかし、あなた方は主と約束し、主の聖所に立ち帰り、主に仕えなさい。あなた方が、そうすれば、主は、捕らえられているあなた方の息子たちや娘たちに憐れみを示すであろう。なぜなら、主は懇願されれば、憐れみを示し、寛大であるから。¹²⁾」と。こうして、ヒゼキヤは、書簡と使者によって、神から墮落した民に合法的な王が統治するユダばかりでなく、他の王に服従しているイスラエルにおいても後悔の念をおこしたのです。そして、邪悪なものたちによって彼の使者はあざ笑われたこともあったが、しかし、彼らは、正当な罰が行われていなかったのであり、(サムリアが滅ぼされてそして、イスラエルは、シャルマナサルによって捕らえられてから、6年内にはあるが)、熱心なヒゼキヤ王は、神の完全な命令のため、宗教を回復し、すべての忌むべきものを取り除くという彼の義務を遂行することを決して、やめなかったのです。

同様のことがヨシアについてもわかりますが、ヨシアは、宗教を回復しようとしたばかりでなく、さらに、長い間残っていたすべての偶像崇拝の記念物を破壊しました。それは、一彼について書かれていますが一律法の書が見つけれられた後、彼は、女預言者フルダの所に行って尋ねました。王は、人を遣って、ユダとエルサレムのすべての長老を集めました。そして、主の神殿に立って、契約を結び、彼は老いた者から、若い者まで、すべての民が、主に従って歩き、心を尽くし、魂を尽くして、主の法と定めと掟を守り、そして、彼

らが、この神の書に書かれた事を何でも、認めることを誓わせたのです¹³⁾。彼は、さらに、大祭司ヒルキヤと次席祭司たちに命じて、主の神殿からバアルのために作られた祭具類すべてを運び出させ、そして、彼はそれを焼き、その灰をベテルに持っていかせました。彼は、さらに、偶像崇拝のすべての記念物を壊し、そのうえ、ソロモンの時代から残っていたものでさえも壊したのです。彼はそれらを焼き、それらを粉々に砕いて灰にし、そして一部をキドロンの谷に振りまき、また一部を偶像崇拝者たちの墓に播いたのです。偶像崇拝者たちが以前ささげ物をした祭壇、それはユダばかりでなく、ヤラバアムが偶像を建てたベテルにおいても、その祭壇で偶像崇拝者たちの骨を焼いたのです。そのうえ、彼はさらに、進んで、偶像崇拝者であり、民をだましていた高位の祭司たちを殺したのである。一私は言いたいのですが一彼は彼らを殺し、そして、彼らの骨を彼ら自身の祭壇で焼き、そしてエルサレムは立ち帰ったのです。この改革は、ヨシアによって為され、そして、そのため、聖霊のこの証明を得たのであります。彼の前にも彼の後にも、モーセの律法に従って、魂を尽くし、力を尽くして、主に立ち帰った、そのような王はおりません。

歴史から見ますと、すべての点において宗教の改革は、偽教師たちを処罰することを伴っていて、そして世俗の行政官の権力に属していることが明かであります。なぜなら、神が彼ら¹⁴⁾を必要としていて、神の正義の故に、責任と権威を持つことを必要であって、そして神は、彼らを承認し、また、神は、熱心で真摯な心を持って、主の神殿や聖所を浄めることを企てている全ての者を承認しないではいられないのであります。前に述べましたように、すなわち、神は彼らを必要とし、非常に入念に彼らは、神の法、定めと儀式を守るべきなのです。そして、彼らの實際が神にいかにか気に入られるかは、神が神自身証言するのであります。というのは、ある者には、

¹²⁾ 歴代誌下 30章6～9節を参照。

¹³⁾ 列王記下 23章を参照。

¹⁴⁾ 行政官のこと。

神は人の手なしに、非常に顕著な勝利を与え、そして彼らの絶体絶命の時に、神は、彼らを特別に顧みられ、超自然的なしるしを表すのであります。そして、他の者には、神は、王国を確立させ、彼らの敵たちは彼らに屈服するようにさせるのです。そして、神は、全ての名を命の書に書き込むばかりでなく、彼らの時代から全ての子孫の祝された記憶として書き込まれるのであります。また、それは主イエスの来られるまで続き、主イエスは、永遠の王として彼らに報いるだけでなく、意志を行い、この腐敗した時代の人々の真ん中であって、天の父なる神の栄光を促進することを偽ることなくなされる方なのです。そのことについて考慮して、主よ、一すべての遅滞は別にしておいて一貴方方の支配や領域内での宗教の改革を貴方方は用意すべきなのです。そして、今、この国は非常に墮落しているので、キリストの機関のどこにも本来の純粋性が残っていないのです。ですから、早急に貴方方は、宗教を改革する準備をすることが必要であり、さもないと、貴方方が、貴方方の臣民に対する愛がないばかりでなく、貴方方自身の救いに与ることも、神の恐れや神の崇敬もなく生きることを告白することになるのであります。

簡単に貴方方が何も属していないことに触れる前に、これらの歴史について、2つのことを考えてみましょう。まず、貴方方は、ユダヤ人でなく異邦人であり、二番目に貴方方は、王ではなく、貴方方の王国の貴族であります。しかし、だまされてはなりません。というのは、両者とも、神の御前で貴方方の義務を果たすことを免れてはいないのです。というのは、律法の時代において、真の宗教を守る事に関して、神はイスラエルあるいは、ユダにおいて世俗行政官を必要とし、同様に福音書の時代、キリスト・イエスを告白することに関して、合法的行政官を必要としましたが、このことは、実際、確かなことなのです。聖霊はダビデの口によって次のことを私たちに教えてきました。つまり、(詩篇2編であります)「教えを受けよ、あなた方は、子に口づけせよ、そして、主が怒って、道を失うこ

とがないように、あなた方は、地を治めよ。」と。この勧告は、律法の下での裁きにだけ言われたものではなく、福音書の時代、地位ある者全てを含んでいるのであって、詩篇はその敵が最初非常に激しく、責め、敵たちの怒りを表し、虚栄心をもってあざけた神の王国を、その時、キリスト・イエスは支配し、戦ったのであります。そして、王や裁判官たちは、自分自身をすべての律法や服従から自由になることを思い、盲目的に激怒したことを悔いることを命じ、そして、裁判官は教えを受ける義務があるのであります。最後に、恐れの中ですべて者は、永遠なる方に仕えることを命じられ、恐れつつ、神の御前で喜び、子に口付けし、すなわち、神に対して、非常に謙遜して服従することを命じられるのであります。それで、統治者、行政官、裁判官は、今やキリストの王国の中であって、かつて律法の下にあった者に劣らないほど、服従する義務があることは、明らかなことなのです。《この先の訳は次号に続く予定》

*尚、拙文のカギ括弧《 》は拙著が補足したものである。

